第３回白浜地域づくりを考える会概要

開 催 日	平成 21 年 10 月 3 日			開催場所	南房総市白浜支所　２階会議室
参加人数	51 人	開催回数	3	開催時間	午後 1 時 30 分　～　午後 4 時 30 分
参 加 者	ＰＴ中山、平嶋、木村、座間、野中、平川、結縄、杉田 加藤企画部長、山口市民協働推進室長、豊崎白浜支所長、吉田課長、三嶋グループ長 千葉工業大学鎌田元弘教授、千葉工大生５人 考える会メンバー　２２人、支援員　篠崎、片桐、川上 国土交通省関東地方整備局首都圏広域地方計画推進室　中西課長、古谷　視察 千葉自然学校４人、新たな地域づくり研究協議会　黒川会長　傍聴				

１．開催内容

中西課長の紹介及びあいさつ

地域づくり支援員の紹介　片桐、篠崎（白浜地区担当）　川上（和田地区担当）

１．開　　会（山口室長）

２．これまでのワークショップについて

（千葉工業大学　鎌田元弘教授）

３．今後のスケジュールについて

～現在のロードマップから現在地の確認～（座間）

４．　具体的活動テーマの提案（平川）

～休憩～

５．テーマごとに分かれてワークショップ

６．ワークショップのまとめ

７．その他

８．閉　会

２．要旨

【２．これまでのワークショップについて（千葉工業大学　鎌田元弘教授)】

私たちのワークワークショップは、第３回を迎えた。話を伺うと、「机の前での作業はもう十分。目の前に大きな課題や資源があるのだからそろそろ汗を流して行動しよう。」という意見も聞こえてきた。今日は最後のデスクワークになると思うが、フィールドに出て行くための最後の準備というワークショップを行う。これまでの経緯を振り返りたい。こちらのメンバーの中には、スタッフとして３回以外にもう３回ほどワークショップの準備をしていただいており、実は、都合６回目になる。１回目ワークショップは、地域の課題マップ・資源マップの作成し、皆で認識しあった。それに先立って未来塾メンバー等には、「ワークショップとは何か」について勉強会をしている。第２回目は、地域の弱み・強みゲームやＫＪ法によりテーマを掘り下げて皆で共有した。「会議形式で、建設的に誰かがリードして提案したものに基づいて進めた方が効率いい。」という意見をよく聞くが、同じような対等な関係で、６，７人の人たちが、同じテーブルで意見を自由に出あうプロセスが重要であることから、この形式をとった。その後スタッフの方々に２回、ワークショップに向けた準備をしていただいている。１つは、中間支援についての勉強会（9/4)、もう１つは、フィールドに出ての活動のテーマの選定の案についての協

議を行った（10/1）。このテーマ選定の案に同意いただければ本日、第３回目のワークショップは、行動計画の策定について議論し、現場に出て実践することに向けてシナリオづくりをする。これが、本日の目的です。

今まで皆さんが作られたものを例にとって説明します。最初は、地図を使って地域の資源・課題を出していただいた。地図に落とすことで、繋げて解決するにはどうしたらいいか、糸口が見えてくる。どこから手をつければいいか、優先順位も話し合っていただいた。大事なことは、これから現場に入っていただいたときに、また原点に返って、地域の課題は、ここは、済んだが、まだ、こういうことがあるという確認をする、ここ（マップ）に戻っていくこと。

第２回目は、課題や宝について掘り下げて議論し、弱み・強みを話し合った。進めていく中で、意見の対立がある。市民協働は、対立してはいけないということは無い。ある意味色々な意見が出て良いこと。但し、そこの対立した部分で、終わってしまっては話が進まない。市民協働で皆が協力してできることはどこだ、を探っていかなければいけない。気になったのは、あまりに否定的な意見で終わってしまうこと。「限界集落を迎えてしまったのだから、良くなりっこない。」というところで止まってしまっては、グループ内の元気がなくなってしまう。あと一歩踏み出して、では、どこからだったら解決できるか、というところに慣れていただくと話し合いができるようになる。また、抽象的、評論家的な意見は、問題解決にはならない。課題に取り組んで、具体的なテーマをやっていく意思を共有できることが重要。ある班は、海岸線ごみマップづくりについて話し合われた。「海岸をきれいにしよう。」だけでは議論は進まないが、例えばマップ作りのために、どうやって情報を集めて発信して、地区の状況を調べて、ボランティアと連携して、といったアイデアが出てくる。具体的なものから起こしていくと、いろいろな連携の構図が見えてくる。

勉強会で学んだ中間支援について紹介します。人の組織は難しく、ある場面とある場面があると、その中間をどう繋ぐかが大変重要。政策（机の上）と現場を取り持つのは、中間組織。また、いろいろな活動の班と班との調整や、行政区とＮＰＯの間を取り持つのも中間組織。本日参加された地域づくり支援員の方々は、中間支援のところを、特に、地域の中で育っていく中間支援の方々をサーポートしていく状況になっていくことが望ましい形と思う。市民協働は、行政の中からでなく、市民の中から中間支援組織が生まれるのが重要。複数の団体があると積極的に頑張れるところと、火が点かないところがある。その後者に中間支援が入り、いろいろ連携を図っていくような影の役回りをするのが中間支援です。

【３．今後のスケジュールについて（座間）】

行政から提案して、それに対して意見を述べるなどの従来の会議とは違う進め方に戸惑いを感じているという意見をいただいていることから、今後のスケジュールとしてとして大まかなものを示し、現在の位置の確認をしたい。

まず、会の皆様が集まっていただいた、入り口の部分のおさらいをします。１回目で地域づくり協議会を進めていくにあたり、その原点は協働であると話しました。協働とは、南房総市では、『住んで良かったと思われるまち「南房総市」を実現するために、目的を共有し、市民の皆さん同士が、対等な立場で、主体性と自発性をもって責任と役割を分担し、お互いの特性や能力を持ち寄って連携・協力して取り組んでいくこと。』としている。

協働とは、志・目的の多少の違いがあっても、連携・協力してともに担うこと。白浜の地域づくりを考える会も、白浜を良くしていきたい、元気にしたい、何とかしたいなど想いを持って集まり、活動を起こしていこうとしている。協働を進めていくうえでの基本的なところから入っている。

また、協働は一人では成り立たない。協働の大前提は、共感です。共感してはじめて同じテーブルについて、話し合い役割分担を決め活動すること。一方的な押し付けでは協働とは言えない。

協働の考え方を踏まえ、地域づくり協議会を設立するにあたり、白浜の地域づくりを考える会として、豊かで住みよい白浜の地域づくりを目指したいという想いで皆さんがこの会に応募されたものです。次の文章は、皆様を募集する際の応募用紙に記載されたものです。

『地域づくり協議会は、●地域の課題を解決していきます。●地域のよりどころになります。「話し合いの場」「地域の情報が集まる場」となります。●地域の絆を深めます。人・団体・情報・資源などを“つなぎ、結びつけ”地域づくりを進めていくところです。』

そうした中で、地域資源の発見、課題の発掘、それらの活用、解決策を検討し、地域おこし、活動へつなげていこうとするものです。まずは、できることから始めようということだった。

ここで、確認したいことは、まずは、白浜を何とかしたい、住みよいまちづくりを目指して始めていったのではないでしょうか。

現在地の確認をすると、絵の左側は、地域づくり協議会を目指し、全体的なロードマップです。右側が白浜地域となる。６月に白浜の地域づくりを考える会を発足し、７月、８月にワークショップを開催してきた。これは、円卓会議から始めようという段階。

その後、９月には、ファシリテータ研修を行い、本日の会議となっている。現在は、ステップ１の最終段階に入っている状況です。今後は、準備会の設立、協議会を発足し、住みよい白浜づくりに向けて進むことになる。

段階に応じて、準備会、協議会いおいては、補助金・交付金の財源的支援、また、この１０月から、地域づくり支援員として、２名を支所に配置することとしている。

次に、具体的な今後のスケジュールと今日のゴールを確認していきたい。本日は、まず現在地を確認することを１つのゴールとしている。そして、先日のファシリテータ研修の参加者から、そろそろ具体的な活動に移るべきであるという意見をいただき、本日は、その提案をいただき，提案いただいたテーマごとにグループ分けをした後、活動計画の作成をゴールとしている。

その後のスケジュールとしては、活動の部分と、組織の立上げの２本立てとして進むことになる。

活動としては、次回以降、本日作成する活動計画を実現化に向けたフィールドワークを通して、実践活動に結び付けていく。ここの活動はあくまで活動していくきっかけとなるものであり、会の活動とし

て今後続けていくかどうかも活動の中から決めていこうとするものです。

また、同時並行として活動の受け皿、事業を進めていく協議会という組織の編成も行っていく。次回は、準備会へ進む確認をし、会議形式により進めていくことになる。協議会の目標・事業計画を決めるなどをした後、地域での認知として、行政区に対して説明・同意を求め、協議会を発足していくこととしている。

これらを進める中で大事なことは、協議会の目標を定めることであるが、活動や組織の編成を通して、これまでのワークショップの内容も踏まえて、地域の課題や地域の資源をどうやって活かしていくかなど、会の目標を定め、事業計画を作成することになる。

最後に、和田の地域づくりを考える会について、白浜に遅れるところ半月でスタートした。和田では、５３名が集まった。地域の拠点施設の構想がある中で、すでに、「生きがい・賑わい・安心」機能が必要であると導き出されており、和田の場合は、この３つの視点からグループ分けをし、さらにこれらをつなぐ中間支援グループに分かれ、ワークショップ、会議形式とグループの実情に合わせた会議手法によって行っている。今後は、それぞれのグループから活動計画が作成され，全体計画へつなげていくことになっている。

【４．具体的活動テーマの提案（平川）】

９月４日に、皆さんにワークショップの案内をしながら、急遽ファシリテーター研修会に変更させていただいた。予定していた皆様にお詫びします。

その際に参加者の中から「行動を起すべき」「机上で議論していても中々議論が進まない」などの意見が聞かれ、活動のテーマを決め、それを具体的に活動に結びつけることが、会を前進させると考えた。

どんな活動のテーマが良いかを集まったメンバーで話し合った結果、４つのテーマに絞りこまれたので、そのテーマに向かって活動計画をつくり、実践していくこととしたいと考えている。

テーマは

① 地域の人達と地域を考えるきっかけづくりの為に、新しくできる広域農道を歩くイベントを開催する。

② 市外の人に地域を案内できるように、今 JR と連携して行っている城山の活動と併せて地域ガイドを行う。

③ 地域の景観を考えるきっかけづくりの為に、幹線道路を中心に設置されているプランターきれいにする。

④ 地域の魅力発信のきっかけづくりの為に、現在活動をしている金盞花・ソラマメの播種から出荷までの体験ツアーを、より白浜の魅力が詰まったツアーにするために磨き上げる。

この４つを活動のテーマとして提案する。この活動のテーマは、この考える会が動き出すきっかけとして提案するもので、今後地域づくり協議会がこの活動を継続的に行っていくとするものではありません。しかし、この４つの提案であれば、考える会のほかのみなさんにも共感してもらえる内容ではないかと考えたもの。皆の中には他にやりたい活動もあるかも知れないが、初めの一歩として、これら４つのテーマを提案する。

また、これから新たに４つのテーマごとに班に分かれ、活動計画を作ってもらうが、いざ活動になったときは、ここにいる皆さんで協力しながら行っていくこととなるのでよろしくお願いします。

質疑回答

Ｑ：海岸の漂着ごみをどうするかというテーマがあったと思うが、なぜ今回テーマとしてあげなかったのか。

Ａ：話し合いの中で出たが、身の丈にあった、すぐできるであろう活動を考えたときに、景観については、プランターから始めるのが良いだろうということになった。

Ｑ：そのテーマには、海岸のごみをきれいにして、そこに、いろいろ花木を植栽するということも入るか。

Ａ：そこまで広げると、継続的な活動になってくる。すぐに花木が植えられるかというとそうではない。そこに至るまでやらなければいけないことが出てくる。手の付けやすいところからと考えて選定した。今後皆の活動の母体となる地域づくり協議会ができたときには、中期的な計画を立てることも可能となるので、そのときには、そのような活動も可能となる。

Ｑ：今日も掃除しながら、気がついたのは、草むらに、撒餌が入ったビニール袋が捨ててあった。きれいなところには、捨てないが・・・。

（鎌田先生のコメント）

話の途中だが、全体的な考え方を私から説明し、後ほど話を伺うということでよろしいか。

Ｑ：知らないうちに漂着ごみの問題が脇に行ってしまったことに私は、納得がいかない。

（鎌田先生のコメント）

スタッフの方で、取り付けやすいテーマを選定したと思う。復習になるが、ワークショップのポイントを申し上げたい。今回、大事なことは、このテーマは、取り組むための素材として掲げたもので、この件についてだけ取り上げるというものではない。海岸線の問題は、非常に重要な位置付けで、大きなテーマの１つに挙げられてきた。但し、この問題となると、さらにいろいろな調整が必要で、複数の町会に別れていることもあり、結でやる部分と市民活動でやる部分という複雑な部分があることから、練習台として少しこなれてきてから、という観点もある。大事なことは、地域づくり協議会が、自分たちのまちの課題を自分で発見できること。１つのテーマは、これだけで終わりではなく、どんどん自分たちで問題を発見してそれを解決する仕組みを自分たちで創る。最初から応用問題に取り組むよりも、まずは、動き出してわかりやすい部分、基礎的な、「市民協働は、汗を流してこうやればいいの。」ということが、わかってからの方が、応用問題に取り組みやすいであろう。と考えていただければ。海岸ごみの問題をないがしろにしているわけではない。大事なことは、地域資源と地域課題のテーマを、「私のテーマにもっていきたい。」ではダメ。地域としての資源・課題を共有することが大事。そういう意味では、個人の興味もあるだろうが、それだけでは市民協働は動かない。「新たな公」としておおやけの１つの担い手になるわけだから、ある程度の市民全般、地域の人全般に目配りができないといけない。それができた中で、「ここを優先しましょう。ここを次にやりましょう。」を発見していく力が、新たな公の担い手になる。新たな公を担っていくんだ。というのが、協働の「錦の御旗」となると考える。地域全体で、優先順位を決め、応用問題をじっくり取り組む課題、まずできることからやる課題、いろいろある。皆の視点で位置付けしていくのが、新たな公の視点。テーマの取りっこは、決してやってはいけない。何から取り組むか、参加者全員で、できるだけ掘り下げていく。

ここが、いざ取り組むとなると難しい。だから、回りくどいかも知れないが、ワークショップという作業をしているわけです。協働のメリットを生かして、今日は、行動計画を作っていただく。行動をすることに、いろいろな視点があることから、市民協働ならでは付加価値を付ける。例えば、ごみを使ったアートを熱心に作っておられる。プランターがきれいになり、その１つにポケットパークを作る。そのポケットパークにそのアートを飾り、海岸をきれいにしようとアピールすることも可能。いろいろなところが、いろいろなところと応用の中で結びついていく。そこが市民協働の一番楽しいところ。漂着ごみの問題をやっていただけでは、そういう発想にならない。いろいろな観点からいろいろなアプローチをしていくのが、面白いところ。地域の方は、行動は早いが、割とそれだけで終わる。市民協働は、地域の課題全部を自分たちで探していくということだから、面倒でももう一回集まって地域の課題は何か、どこから手をつけようか、を常に議論していただく。そのところが、最近の言葉で、Ｐ（プラン）Ｄ（ドゥー）Ｃ（チェック）Ａ（アクション）というが、計画を立てて、実行して、見直して、またチェックして計画を練り直す。その繰り返しが地域づくり協議会の役割だと思う。そのためには、やりっぱなしにならないことが重要です。まずは、協働をやって、いつまでも机の上だけでは、疲れてしまう。実際に皆で汗をかいてやってきれいになる。新たなアイデアができるとなると、喜びが出てくる。協働をした喜びを皆で分かち合うことは、重要なこと。このような仕組みを次から次へやっていかなければならないので、支援者の方々の協力も得て、中間支援組織を創っていくということです。

（山口室長）

個々にご意見はあろうが、このように４つの提案をさせていただいた。休憩の後、自分自身が参加してみたいテーマ　①はＡ・②はＢ・③はＣ・④はＤ班の机に集まってください。

（鎌田先生のコメント）

あくまでも今回は、取り組みやすい練習問題というご理解を。

～休憩～

【５．テーマごとに分かれてワークショップ】

（山口室長）

①の「広域農道ウォーキング」は、白浜名倉地区で、現在広域農道のトンネルができており、開通前に渡り初めのような記念イベントができればということで、提案するもの。

②の「城山（じょうやま）ウォーキング＋ガイド」は、里見の初代の義実の城跡にできたウォーキングコースを一緒に歩いたり、ガイドを養成しようという考えから提案するもの。

③の「プランター植栽（景観）」は、旧白浜町の時代、１０数年前、約２００のプランターを設置し、花を支給していたが、予算の関係で、できなくなったところ、地域の人の協力を得られず、草だらけになっている。これをなんとかしようというもの。

④の「体験農業ツアー」は、農業体験ツアーをつくって行動していこうというもの。

それぞれに分かれていただきたい。

（鎌田先生）

一番大事なことは、「協働して何になるの。」というのを実際に目で味わう、体験して味わうのが、一番早い。①の県道の供用開始は、もうまもなくで、成果がすぐに見えやすい。②は、聞くところによると、バス会社と連携してツアーが組めるかも知れないところまで来ている。③プランターも今まで荒

れているものが、ある時からきれいになれば、非常にわかりやすい。④は、高木さんのところで、汗をかいていただいているが、魅力的で人が集まれば、成果が見える。これらは、基本問題として良いもので、是非お試しで取り組んではいかがでしょうか。１つ②について、進め方の例を考えてみました。

まずは、なぜ、ここを選んだのか、城山は、この地域の資産の中のどういう位置にあるのか、考えて見てください。シンボルですよね。それにガイドを付けるなどのいろいろな付加価値をつけることを考えてください。もう１つは、「旗印」地域の資源を、市民協働でさらに磨きをかけるということ。観光ルートとしての魅力を高め、たくさんの観光客を迎えることで、市民協働の成果を共有することが大事。汗をかいた分嬉しくなる。次に、プラス史跡めぐりで、どういうガイドが必要で、誰がいいか、いつ交渉するか、そのためのコースをどうしたらいいか、その魅力を高めるにはどうしたら言いか、市民の目線ならではのアイデアを是非考えてみてください。

最終的に実践に移すための行動計画を作っていくわけだが、これを誰にプレゼンするか、市民に是非一緒にやっていきましょうというのもそうです。新しいコースをバス会社に売っていこうということでも良いです。少し、売り込むんだというところを行政まかせではなく、新たな公の気持ちになって売り込む意識を持って、商品を開発するというイメージも重要と思う。いろいろなアイデアを乗せて行動計画を立てることをやっていただければいいと思う。

机の上にあるフォーマットは、他の地域の例です。実践に向けてシナリオを作りましょう。親水公園を作りましょうと書いてあるが、そのためには、掃除から始まって、いろいろな調査会を始めて、足場を皆で作って、遊歩道を工夫して、ビオトープを作って、里山を作って、公園に至ろうという段取りがある。すぐにできる段取りから、少し長期的な段取りまで、そのときに、住民ができることは何、ＮＰＯができることは何、行政（市の何々課）ができることは何、他の企業との連携ができるものは何、というようなステップごとに入れ込む。また、モノ・カネ・人・組織・情報が必要なんだというアイデアを入れていけばいい。その中で、どういうことをここでは中心にやっていくということを決めればいい。

また、誰がやるか。皆でやるんですが、リーダーを誰がやるか等の役回りを決めていただく。いつ、どこで、何からやりだすか、より具体的に細かいテーマに落として、３種類のシートをやりやすいところから、未来塾の方か、市の方にファシリテートをやっていただくことになっているので、テーブルで議論いただきたい。

今日は、より現場に即した話ができると思うので、馴染みやすいと思う。４０分間で、まずは、１枚選んで始めてみてください。お願いします。支援員の方は、ファシリテートのお手伝いをお願いします。

【６．ワークショップのまとめ】

●1 班の発表（佐藤）

仮称テーマは、「白浜のトンネル探検」

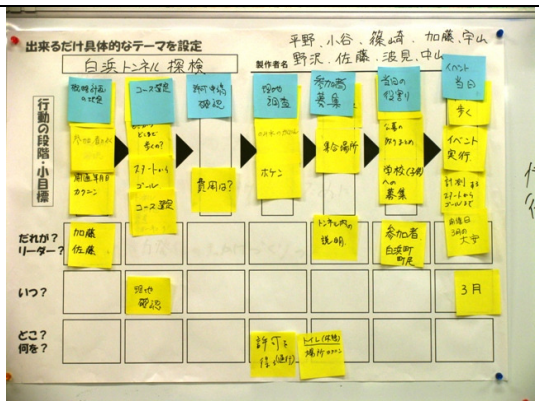
参加者は、白浜住民とします。開通スケジュールの確認⇒どこを歩くか⇒メンバーで実際に歩き確認する。要所で確認作業（許認可等）をしていく⇒当日の参加者の募集をする。

時期は、３月頃か。（花の時期がいいのではないか。）

リーダーは、佐藤と加藤がやる。

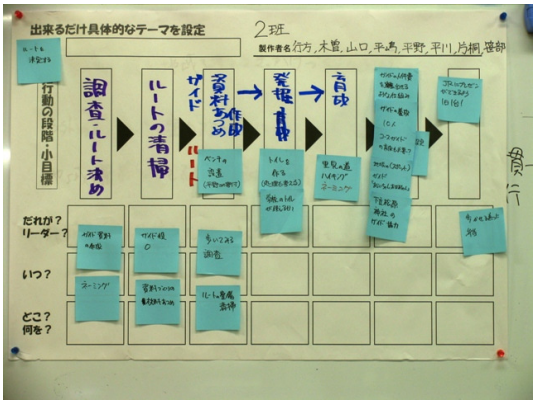
（鎌田先生のコメント）

リーダーまで決めていただき、すぐにでも動きますね。最初に余り広げるのではなく、町内の人にターゲットを絞る点は非常に良い。許認可は行政が得意な分野である。市民と行政の協働の視点としては、非常に良い。協働の突破口として模範的な事業で感心する。



●２班の発表（山口）

城山登山道ウォーキングＪＲと連携して行う事業です。ガイド養成が必要であり、既にお寺や神社の方のガイド協力を得ている。１１月に計画している。ルートの決定⇒トイレも必要ではないか。ベンチの寄附の話もあった⇒地域ガイドは１０人の養成が必要だ。地域の高齢者によるスポットガイドの必要だ。



（鎌田先生のコメント）

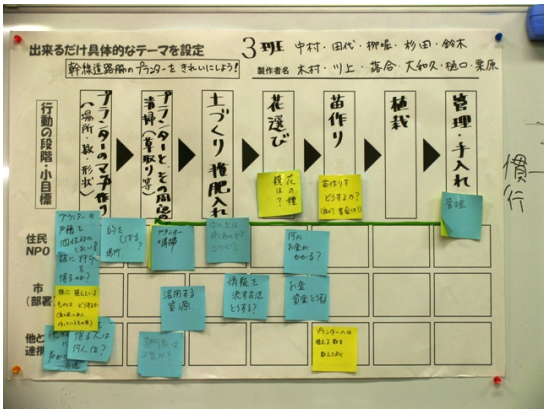
来られる方の目線にたって検討している点は素晴らしい。ベンチが必要だ。トイレが必要だと気づいた点。また、お金をかけずに行うとしている。ベンチの材料は寄附するよ。ベンチを作る役割など既に協働の視点が入っている。これまでは、行政にベンチを作ってもらおうという発想であったと思います。その点で意識が変わりつつあることは素晴らしい。まずは、一歩踏み出していこうとすることで、知恵を集めていくことは重要です。この班もとても素晴らしい計画です。

●３班の発表（栗原）

幹線道路脇のプランターをきれいにしよう！

まずは、プランターのマップづくり⇒清掃（草取り）⇒土づくり・堆肥入れ⇒花選び⇒苗づくり⇒植栽⇒管理と手入れと行っていく。地元の方の知恵を借りながら進めていく。

継続事業とするために、堆肥づくり、苗づくりからはじめていこう。

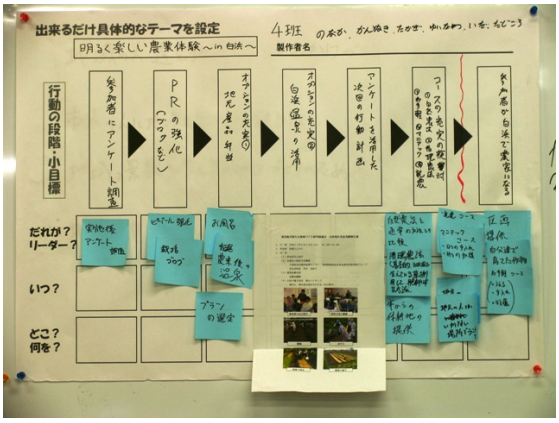


（鎌田先生のコメント）

継続した事業としていく点はとても素晴らしい。土づくりに得意な人、花作りに得意な人などの知恵を借りるなど、この事業のパートナーが頭の中で描かれている。市民協働のそのものである。年度を超えた事業は、行政は苦手ですが、継続的にやっていこう。それを市民の手でやっていこうとする見事な視点です。

●４班発表（井田）

明るく楽しい農業体験～ＩＮ白浜～



既に行われている事業ですが、第１回がすでに行われている。

参加者にアンケートを取る。⇒ＰＲの強化（ブログの発信など）⇒オプションの充実（お弁当）⇒温泉の活用⇒アンケートを活用した次回の行動計画⇒参加者が農家となる。（夢）

（鎌田先生コメント）

最終的に就農者を増やしていく旗印（目標）をたてたことは素晴らしい。この班は、最初は、何をやっていくのか迷う中で、他の班を参考にしてここまで作り上げた。感心する点は、やりぱっなしからアンケートを行い事業をさらに発展していく点は、市民協働的な発想である。地域の資源を活かそうとする点もとても素晴らしい。

（鎌田先生全体のコメント）

４つの班に分かれて、市民協働の視点で活動計画が作られた。非常に感心するところです。

最初からこれをやればいいのではというお話もあると思いますが、大事なことは地域にどんな資源があって、どういう地域課題があって、地域の取組の中にこういう課題がある位置づけをどこかでしておくことが必要です。自分たちの興味がるところだけでは、進まないところがあるんですね。そこは、ちょっと苦痛だったと思いますが、学習の過程として捉えてください。本日、市民協働の視点でここまで至った経過は、これまでのワークショップが実を結んだもの大変感謝しています。

こうした農村的な社会では、市民協働の意識を作っていくことは大変難しいものです。私は、南房総市は、それが出来る数少ない市であると希望を感じました。

今後は、時間を取れる範囲ですが、私もお手伝いさせていただきます。本日は、ありがとうございました。

あわせて、大学として、ワークショップのアンケートとしてお願いします。

～アンケート記入～

【７．その他】

今後のスケジュールについて（事務局）

地域づくり協議会は、ゆたかで住み良い白浜の地域づくりを考えていきましょう。これに向かって皆さん集まっていただきました。今後は、協議会を立ち上げる準備として、準備会の設置に入っていく。

そこでは、会員募集、アンケート、事業計画などを行っていきます。今日、やっていただいた内容は、フィールドワークとして実践していきます。お話は途中かもしれませんが、グループごとに日程を決めて、どうにか実践までつなげていきましょう。

組織の立上げについては、別途事務局から通知していきます。

地域づくり支援員は配置されましたが、現在、研修中ですので、それまでの間は、支所、市民協働推進室までご連絡ください。地域づくり支援員の連絡先は決まり次第お知らせします。

（質疑回答）

Ｑ：各グループで実施する活動は、事務局に連絡するのですか。

Ａ：活動を把握したいので連絡をお願いします。

Ｑ：活動をする中で、事故の対応（保険）などはどうするのか。

Ａ：準備会の段階になれば対応は可能です。

Ｑ：他の活動に興味があるのですが。

Ａ：４つの班に分かれておりますが、活動については、みんなでやっていきましょうということになります。会議の案内、活動の案内などは、支所にお知らせ版をつくるなどを考えていきます。

Ｑ：地域づくり協議会のこのメンバー以外に参加していただくのか。

Ａ：準備会の段階で会員募集を行うことになります。

Ｑ：活動を行う中で、一緒に行う方を参加させてどうか。

Ａ：活動に賛同する方には、是非参加していただきたい。

Ｑ：活動テーマは４つ設けられた。トンネルは単発で終わってしまうのが心配だ。

Ａ：単発ではなく、継続していくようにしていただければ・・・

Ｑ：プランターの計画なんですが、費用がいいのか。金盞花がいいのではないかと思う。スケジュール的に、すぐにミーティングは進めていいのか。

Ａ：ＯＫです。

Ｑ：４つのテーマ全てに興味がありますので声掛けをお願いします。

Ａ：そのように進めていきます。

Ｑ：いつまでに協議会を立ち上げるのか。

Ａ：本年度中を考えています。